

儒学的制度化、常识化和风俗化——从历史看儒家

葛兆光

【提要】儒家学说的研究者，过去往往是哲学史家和思想史家，所以主要把儒家学说作为哲学或思想来讨论，而我试图“眼光向下”，转从政治史、教育史和社会史的角度，来讨论历史上儒家学说的制度化、常识化和风俗化，即（1）从秦朝的“以吏为师”到汉代的“以师为吏”，儒家是怎样与传统帝国协调，从单纯的思想学说逐渐转化为可操作的政治法律制度？（2）传统中华帝国的制度，是怎样使得儒家学说，经由教育的普及和士绅的努力，逐渐成为渗透社会基层的常识？（3）经由“循吏”的教化以及士大夫的“觉民行道”，儒家学说是怎样以通俗方式移风易俗，形成弥漫汉族中国民间的风俗。如果有可能，我也试图顺便比较一下中国、日本、朝鲜和越南，究竟在“制度化”、“常识化”和“风俗化”这三方面，东亚各国有什么异同。

【关键词】儒家学说，以师为吏，制度化，常识化，风俗化

【日本語訳】儒家の学説についての研究者たちは、かつてはだいたい哲学史家か思想史家だったので、おもに儒家の学説を哲学ないしは思想として討論してきた。しかし私は「視線を下に向け」て、政治史・教育史・社会史の角度から歴史上の儒家学説の制度化・通念化・習俗化について議論してみたい。すなわち、（1）秦朝の「吏を師にする」から”漢代の「師を吏にする」までに儒家がどのように伝統帝国と協調し、単なる思想学説からしだいに転化して政治法律制度を操ることができるに至ったか、（2）伝統中華帝国の制度は、どのようにして儒家学説が教育の普及と士紳たちの努力を通じて基層社会に浸透する通念となるようにしたか、（3）「循吏」による教化と士大夫による「民を覚醒させて道を実践させる」ことを通じて、儒家学説はどのように通俗的な方法で社会風俗を移し変え、漢族に広がる中国民間の習俗を形成したのか、である。もし可能であれば、中国・日本・朝鮮・ベトナムを比較し、「制度化」・「通念化」・「習俗化」の三方面で東アジア諸国にどんな異同があるか試論してみる。